

表 2 4 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹
ラット	90 日間亜急性毒性試験	雄：2.7 雌：3.2	雄：13.8 雌：16.3	雌雄：小葉中心性肝細胞肥大等
	2 年間慢性毒性/発がん性併合試験	雄：1.0 雌：1.2	雄：3.9 雌：4.8	雄：脾色素沈着増加 雌：体重増加抑制等 (発がん性は認められない)
	2 世代繁殖試験①	親動物： P 雄：1.5 P 雌：1.7 未満 F ₁ 雄：1.7 F ₁ 雌：1.9 未満 児動物： F ₁ 雄：15.3 F ₁ 雌：17.2 F ₂ 雄：17.4 F ₂ 雌：19.4	親動物： P 雄：6.1 P 雌：1.7 F ₁ 雄：6.9 F ₁ 雌：1.9 児動物： F ₁ 雄：— F ₁ 雌：— F ₂ 雄：— F ₂ 雌：—	親動物：体重増加抑制 児動物：毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)
	2 世代繁殖試験②	親動物： P 雄：1.1 P 雌：1.3 F ₁ 雄：1.1 F ₁ 雌：1.2 児動物： F ₁ 雄：1.5 F ₁ 雌：1.7 F ₂ 雄：1.5 F ₂ 雌：1.7	親動物： P 雄：1.5 P 雌：1.7 F ₁ 雄：1.5 F ₁ 雌：1.7 児動物： F ₁ 雄：— F ₁ 雌：— F ₂ 雄：— F ₂ 雌：—	親動物： P 雄：肝及び精巣上体尾部比重量増加 P 雌：胸腺比重量増加 児動物：毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)
	発生毒性試験	母動物：10 胎児：500	母動物：100 胎児：—	母動物：体重増加抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
マウス	90 日間日間急性毒性試験	雄：24.0 雌：10.3	雄：— 雌：21.7	雄：毒性所見なし 雌：脾色素沈着増加

	18ヶ月間 発がん性 試験	雄：1.5 雌：1.9	雄：15.4 雌：19.7	雄：白血球及びリンパ球数減少等 雌：体重増加抑制 (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性 試験	母動物及び胎児： 200	母動物及び胎児： —	母動物及び胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間亜 急性毒性 試験	雄：0.9 雌：1.3	雄：10.4 雌：10.7	雌雄：肝比重量増加等
	1年間慢 性毒性試 験	雄：1.01 雌：1.05	雄：8.95 雌：10.4	雌雄：体重増加抑制傾向等

1：備考に最小毒性量で認められた所見の概要を示す。

食品安全委員会は、各試験の無毒性量の最小値がイヌを用いた90日間亜急性毒性試験の0.9 mg/kg体重/日であったが、より長期の1年間慢性毒性試験では1.0 mg/kg体重/日であり、この差は用量設定の違いによると考えられた。また、ラットを用いた慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量も1.0 mg/kg体重/日であったので、これらを根拠として、安全係数100で除した0.01 mg/kg体重/日を一日摂取許容量(ADI)とした。

ADI	0.01 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料 1)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1年間
(投与方法)	混餌投与
(無毒性量)	1.0 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100
(ADI 設定根拠資料 2)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌投与
(無毒性量)	1.0 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<別紙1：代謝物/分解物略称>

略称	化学名
B	イソプロピル=(4-メトキシビフェニル-3-イル)ジアゼニルホルマート
C	イソプロピル=(4-メトキシビフェニル-3-イル)ジアゼニルホルマート, 2-オキシド
D	4-メトキシビフェニル
E	4-ヒドロキシビフェニル
F	4-ヒドロキシ-4'-メトキシビフェニル
G	4, 4'-ジヒドロキシビフェニル
H	3-ヒドロキシ-4-メトキシビフェニル
I	イソプロピル=(4-メトキシビフェニル-3-イル)カーバメート
J	3, 4-ジヒドロキシビフェニル
K	3-アミノ-4-メトキシビフェニル
R	イソプロピル=2-(4-メトキシビフェニル-3-イル)ヒドラジンノホルマート, 2-グルクロン酸抱合体
U	4-スルファトビフェニル
V	4-ヒドロキシ-4'-スルファトビフェニル
W	4, 4'-ジヒドロキシビフェニルの抱合体
X	イソプロピル=2-(4-ヒドロキシ-4-メトキシビフェニル-3-イル)ヒドラジノホルマート
Y	イソプロピル=(4-ヒドロキシ-4-メトキシビフェニル-3-イル)ジアゼニルホルマート
Z	イソプロピル=(4-ヒドロキシビフェニル-3-イル)ジアゼニルホルマート
WS-3	メチルエチル (2-メトキシ-4[(メチルエトキシ)カルボニルアミノ]-5-フェニルフェニル(ジアゼニル)ホルマート

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量
ALP	アルカリホスファターゼ
Bil	ビリルビン
Chol	コレステロール
C _{max}	(血漿及び血中放射能) 最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
Glob	グロブリン
Hb	ヘモグロビン
Ht	ヘマトクリット値
Lym	リンパ球
MCH	平均赤血球血色素量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
Neu	好中球
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板
RBC	赤血球
T _{1/2}	半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T. Bil	総ビリルビン
T. Chol	総コレステロール
T _{max}	(血漿及び血液中) 最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					個別定量				一括定量	
					ビフェナゼート		代謝物B		ビフェナゼート及 び代謝物Bの含量	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
さといも (塊茎) 2003年	2	600	1	3	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				7	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				14	/	/	/	/	<0.01	<0.01
かんしょ (塊根) 2005年	2	300	1	3	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				7	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				14	/	/	/	/	<0.01	<0.01
やまいも (塊茎) 2003年	2	400-600	1	3	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				7	/	/	/	/	<0.01	<0.01
				14	/	/	/	/	<0.01	<0.01
トマト (果実) 2001年	2	500	1	1	/	/	/	/	0.33	0.17
				7	/	/	/	/	0.21	0.11
				14	/	/	/	/	0.18	0.09
ピーマン (果実) 2003年	2	500-600	1	1	/	/	/	/	0.59	0.41
				3	/	/	/	/	0.66	0.41
				7	/	/	/	/	0.34	0.25
なす (果実) 2000年	2	400	1	1	0.43	0.35	0.19	0.11	0.52	0.50
				3	0.30	0.20	0.13	0.06	0.35	0.24
				7	0.08	0.04	0.05	0.02*	0.08	0.06
きゅうり (果実) 2001年	2	500-608	1	1	/	/	/	/	0.14	0.10
				3	/	/	/	/	0.08	0.04
				7	/	/	/	/	<0.01	<0.01
すいか (可食部) 1998年	2	400	1	1	0.02	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メロン (果実) 1999年	2	400	1	1	0.03	0.02*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
温州みかん (果肉) 1997年	2	1200	1	7	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	0.02	0.02
				14	0.02	0.01*	<0.01	<0.01	0.02	0.02*
				30	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	0.01	0.01*
				45	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	0.01	0.01*
温州みかん (果皮) 1997年	2	1000	1	7	3.40	2.44	0.69	0.38	4.04	2.84
				14	3.62	2.12	0.65	0.29	4.07	2.60
				30	2.99	2.06	0.47	0.27	3.01	2.29
				45	2.60	1.70	0.41	0.27	2.60	2.00
夏みかん (果肉) 1997年	2	1000-1200	1	7	0.02	0.01*	<0.01	<0.01	0.01	0.01
				14	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	0.01	0.01
				30	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	0.02	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
夏みかん (果皮) 1997年	2	1000-1200	1	7	0.86	0.60	0.09	0.07	0.91	0.65
				14	0.57	0.48	0.10	0.08	0.66	0.60
				30	0.39	0.31	0.12	0.06	0.48	0.37
				45	0.36	0.22	0.08	0.05*	0.30	0.22
夏みかん (全果実) 1997年	2	1000-1200	1	7	0.29	0.20	0.03	0.02*	0.31	0.22
				14	0.20	0.16	0.03	0.03*	0.23	0.20
				30	0.12	0.10	0.04	0.03*	0.15	0.12
				45	0.12	0.12	0.02	0.02*	0.09	0.07
すだち (果実) 1997年	1	1200	1	7	0.24	0.24	0.03	0.02	0.22	0.22
				14	0.07	0.06	0.01	0.01	0.06	0.06
				30	0.09	0.08	0.01	0.01	0.08	0.08
				45	0.09	0.09	0.01	0.01	0.08	0.08
かぼす (果実) 1997年	1	1400	1	7	0.16	0.16	0.14	0.14	0.31	0.30
				14	0.22	0.22	0.05	0.04	0.26	0.25
				21	0.10	0.10	0.03	0.03	0.13	0.13
				28	0.05	0.04	0.02	0.02	0.06	0.06

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)						
					個別定量				一括定量		
					ビフェナゼート		代謝物B		ビフェナゼート及 代謝物Bの含量		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
りんご (果実) 1997年	2	1200	1	7	0.70	0.45	0.07	0.04	0.74	0.52	
				14	0.40	0.26	0.03	0.02	0.19	0.19	
				21	0.13	0.11	0.02	0.02	0.15	0.14	
				28-30	0.12	0.10	0.02	0.01	0.13	0.10	
りんご (果実) 2003年	2	1000-1200	1	1	/	/	/	/	0.84	0.72	
				3	/	/	/	/	0.47	0.38	
				7	/	/	/	/	0.33	0.26	
日本なし (果実) 1998年 2000年	2	1200	1	1	1.12	0.64	0.27	0.15	1.24	0.90	
				2	3	0.71	0.47	0.23	0.14	0.87	0.62
				4	7	0.45	0.28	0.23	0.14	0.48	0.39
				2	14	0.21	0.16	0.16	0.13	0.34	0.24
				2	21	0.14	0.07	0.13	0.07	0.24	0.17
				2	28	0.04	0.03	0.08	0.05	0.08	0.06
日本なし (果実) 2001年	4	400-1000	1	1	/	/	/	/	0.60	0.38	
				3	/	/	/	/	0.51	0.34	
				7	/	/	/	/	0.29	0.18	
もも (果肉) 1998年	2	800-1200	1	7	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	0.01	0.01*	
				14	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				21	0.01	0.01*	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
もも (果肉) 2003年	2	800-1400	1	1	/	/	/	/	<0.02	<0.02	
				3	/	/	/	/	<0.02	<0.02	
				7	/	/	/	/	<0.02	<0.02	
もも (果皮) 2003年	2	800-1400	1	1	/	/	/	/	9.19	6.83	
				3	/	/	/	/	9.81	5.96	
				7	/	/	/	/	3.86	3.20	
すもも (果実) 2001年	2	800-1000	1	3	/	/	/	/	0.33	0.15	
				7	/	/	/	/	0.21	0.15	
				14	/	/	/	/	0.06	0.04*	
うめ (果実) 2003年	2	600-700	1	3	/	/	/	/	1.05	0.66	
				7	/	/	/	/	0.92	0.49	
				14	/	/	/	/	0.50	0.24	
おうとう (果実) 1998年	2	1200	1	14	0.44	0.28	0.11	0.08	0.49	0.38	
				21	0.28	0.21	0.05	0.04	0.33	0.24	
				28	0.19	0.07	0.04	0.02*	0.21	0.13	
				42	0.15	0.06	0.05	0.02*	0.09	0.06	
いちご (果実) 1997年	2	400-500	1	1	0.86	0.81	0.06	0.04	0.92	0.81	
				3	1.08	0.79	0.11	0.05	0.93	0.84	
				7	0.67	0.44	0.05	0.03	0.69	0.61	
いちご (果実) 2003年	2	500	2	1	/	/	/	/	2.00	1.11	
				3	/	/	/	/	1.34	0.75	
				7	/	/	/	/	0.99	0.48	
いちご (果実) 2003年	2	くん煙剤 37.5mgai/m ³	2	1	/	/	/	/	0.24	0.13	
				3	/	/	/	/	0.13	0.08*	
				7	/	/	/	/	<0.05	<0.05	
ぶどう (果実) 1997年	2	800	1	21	0.94	0.55	0.14	0.08	1.09	0.77	
				30	1.21	0.76	0.13	0.07	1.28	0.91	
				44-45	1.41	0.73	0.14	0.08	1.52	0.93	
ぶどう (果実) 1999年	2	800	1	21	0.96	0.54	0.10	0.06	1.05	0.56	
				28	0.81	0.47	0.07	0.05	0.88	0.51	
				42	0.60	0.38	0.08	0.05	0.67	0.40	
いちじく (果実) 2003年	2	600	1	1	/	/	/	/	0.56	0.54	
				3	/	/	/	/	0.31	0.26	
				7	/	/	/	/	0.17	0.12	
茶 (荒茶) 1998年	1	800	1	14	0.78	0.77	0.06	0.06	0.71	0.70	
	2			20-21	0.05	0.05*	<0.05	0.05*	0.05	0.05*	

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)					
					個別定量				一括定量	
					ピフェナゼート		代謝物B		ピフェナゼート及 び代謝物Bの含量	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
茶 (抽出液) 1998年	1	800	1	14	0.17	0.16	<0.05	<0.05	0.18	0.17
	2			20-21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

- ・ピフェナゼートと代謝物Bは個別定量の測定値、含量については一括定量の測定値。
- ・記載した試験ではすべてフロアブル剤 (SC) を用いた。
- ・一部に定量限界未満を含むデータの平均を計算する場合は定量限界未満を検出したものとして計算し、※印を付した。
- ・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<参照>

- 1 農薬要覧：日本植物防疫協会、2003年
- 2 農薬抄録ピフェナゼート（殺虫剤）（平成16年8月20日改訂）：日産化学工業株式会社、2004年、一部公表予定（HP：<http://www.fsc.go.jp/hyouka/iken.html#02>）
- 3 ラットにおける吸収、分布、代謝及び排泄（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1999年、未公表
- 4 雌ラットにおける組織内濃度：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 5 ラットにおける血漿、赤血球及び脾臓中代謝物（200及び10mg/kg）：日産化学工業（株）、2000年、未公表
- 6 ピフェナゼートの安全性評価資料の追加提出（要望事項に対する回答資料）：日産化学工業（株）、2000年、未公表
- 7 カルボニル標識 D2341 のラットにおける吸収、分布、代謝及び排泄：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 8 ラット門脈血漿中 D2341 及び D3598 の分析：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 9 D2341 及び D3598 のラットにおける吸収、分布、代謝及び排泄：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 10 温州みかんにおける代謝試験（GLP対応）：（財）残留農薬研究所、1998年、未公表
- 11 温州みかんにおける代謝試験（カルボニル標識及びフェニル標識 D2341 の比較代謝）：日産化学工業（株）、2000年、未公表
- 12 オレンジにおける代謝試験（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1999年、未公表
- 13 りんごにおける代謝試験（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1998年、未公表
- 14 なす幼植物における代謝試験：日産化学工業（株）、2004年、未公表
- 15 土壌処理後のなすへの吸収、移行及び代謝：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 16 好気土壌における代謝（日本土壌）（GLP対応）：（財）残留農薬研究所、1998年、未公表
- 17 好気土壌における代謝（米国土壌）（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1996年、未公表
- 18 好気土壌における代謝（日本土壌）：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 19 嫌気性湛水底質における代謝（米国底質土）（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1998年、未公表
- 20 代謝分解物 D1989（記号 D）の土壌吸脱着（日本土壌）：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 21 土壌カラムリーチング試験（米国土壌）（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1997年、未公表
- 22 加水分解試験（OECD111 準拠：pH 4、7、9/25℃、35℃）：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 23 加水分解試験（pH 4、5、7及び9/25℃）（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1997年、未公表
- 24 自然水及び滅菌蒸留水における水中光分解：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 25 pH5 滅菌緩衝液における水中光分解（GLP対応）：Ricerca、Inc.（米）、1997年、未公表
- 26 自然水及び pH 7 滅菌緩衝液における水中光分解：Ricerca、Inc.（米）、1998年、未公表
- 27 分解物 D3598（記号 B）の水中光分解：日産化学工業（株）、1999年、未公表
- 28 ピフェナゼートの土壌残留試験成績：日産化学工業（株）、1998年、未公表
- 29 ピフェナゼートの作物残留試験成績：日産化学工業（株）、2003年、未公表

- 30 ビフェナゼートの作物残留試験成績：(財) 残留農薬研究所、2003年、未公表
- 31 ビフェナゼートの作物残留試験成績：愛知県農業総合試験場、2003年、未公表
- 32 ビフェナゼートにおける薬理試験 (GLP 対応)：(財) 残留農薬研究所、1998年、未公表
- 33 ラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応)：(財) 残留農薬研究所、1998年、未公表
- 34 マウスにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応)：(財) 残留農薬研究所、1998年、未公表
- 35 ラットにおける急性経皮毒性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd. (英)、1996年未公表
- 36 ラットにおける急性吸入毒性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd. (英)、1996年、未公表
- 37 代謝物 B(D3598)のマウスにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd. (英)、1998年、未公表
- 38 代謝物 D(D1989)のマウスにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応)：(株) 実医研、1998年、未公表
- 39 ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd. (英)、1996年、未公表
- 40 ウサギを用いた粘膜一次刺激性試験 (GLP 対応)：Huntingdon Life Sciences Ltd. (英)、1996年、未公表
- 41 モルモットを用いた皮膚感作性試験 (GLP 対応)：(財) 残留農薬研究所、1998年、未公表
- 42 ラットを用いた亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：Covance Laboratories Inc. (米)、1997年、未公表
- 43 マウスを用いた亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：Covance Laboratories Inc. (米)、1997年、未公表
- 44 イヌを用いた亜急性経口毒性試験 (GLP 対応)：MPI Research (米)、1997年、未公表
- 45 ラットを用いた亜急性経皮毒性試験 (GLP 対応)：MPI Research (米)、1998年、未公表
- 46 イヌにおける慢性毒性試験 (GLP 対応)：MPI Research (米)、1998年、未公表
- 47 ラットにおける慢性毒性/発がん性併合試験 (GLP 対応)：Covance (米)、1999年、未公表
- 48 マウスにおける発がん性試験 (GLP 対応)：Covance (米)、1999年、未公表
- 49 ビフェナゼートのラットにおける2世代繁殖試験 (GLP 対応)：WIL Research Laboratories, Inc. (米)、1999年、未公表
- 50 ビフェナゼートのラットにおける2世代繁殖試験(追加試験) (GLP 対応)：WIL Research Laboratories, Inc. (米)、1999年、未公表
- 51 ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応)：WIL Research Laboratories, Inc. (米)、1997年、未公表
- 52 ウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応)：WIL Research Laboratories, Inc. (米)、1997年、未公表
- 53 細菌を用いた復帰変異性試験 (GLP 対応)：Microbiological Associates, Inc. (米)、1996年、未公表
- 54 マウス L5178Y細胞を用いた遺伝子突然変異試験 (GLP 対応)：Microbiological Associates, Inc. (米)、1996年、未公表
- 55 ハムスターの卵巣由来培養細胞 (CHO) を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応)：

- Microbiological Associates, Inc (米)、1996年、未公表
- 56 マウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : Microbiological Associates, Inc. (米)、1996年、未公表
- 57 細菌を用いた DNA 修復試験 (GLP 対応) : (株) 実医研、1998年、未公表
- 58 ラットを用いた *in vivo* 肝不定期 DNA(UDS)試験 (GLP 対応) : (財) 食品薬品安全センター 秦野研究所、1999年、未公表
- 59 代謝物 B(D3598)の細菌を用いた復帰変異性試験 (GLP 対応) : Microbiological Associates, Inc. (米)、1991年、未公表
- 60 代謝物 D(D1989)の細菌を用いた復帰変異性試験 (GLP 対応) : (株) 実医研、1998年、未公表
- 61 代謝物 B(D3598)のマウス L5178Y 細胞を用いた遺伝子突然変異試験 (GLP 対応) : Microbiological Associates, Inc. (米)、1992年、未公表
- 62 代謝物 B(D3598)のマウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : Microbiological Associates, Inc. (米)、1992年、未公表
- 63 ハイイツ小体確認試験 : 日産化学工業 (株)、1999年、未公表
- 64 貧血確認試験 : 日産化学工業 (株)、2000年、未公表
- 65 農薬抄録ビフェナゼート (殺虫剤) (平成 17 年 8 月 2 日改訂) : 日産化学工業株式会社
- 66 ビフェナゼートの作物残留試験成績 : (財) 残留農薬研究所、日産化学工業 (株)、2005年、未公表
- 67 食品健康影響評価について : 食品安全委員会第 64 回会合資料 1-1 (URL : <http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-bunsyo-161005-bifenazate.pdf>)
- 68 「ビフェナゼート」、「クロチアニジン」及び「カズサホス」の食品衛生法 (昭和 22 年法律第 233 号) 第 11 条第 1 項の規定に基づく、食品中の残留基準設定に係る食品健康影響評価について : 食品安全委員会第 64 回会合資料 1-5 (URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai64/dai64kai-siryoul-5.pdf>)
- 69 第 18 回 食 品 安 全 委 員 会 農 薬 専 門 調 査 会 (URL : <http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/n-dai18/index.html>)
- 70 ビフェナゼートに係る食品健康影響評価に関する審議結果について (URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai71/dai71kai-siryoul.pdf>)
- 71 ビフェナゼートに係る食品健康影響評価の結果の通知について[平成 17 年 1 月 5 日付、府食第 1286 号 (URL : <http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-tuuchi-170208-bifenazate.pdf>)
- 72 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生労働省告示第 370 号) の一部を改正する件[平成 17 年 9 月 16 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 423 号]
- 73 食品健康影響評価について : 食品安全委員会第 117 回会合資料 1-1 (URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai117/dai117kai-siryoul-1.pdf>)
- 74 食品健康影響評価について : 食品安全委員会第 117 回会合資料 1-2 (URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai117/dai117kai-siryoul-2.pdf>)
- 75 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生労働省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 17 年 11 月 29 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 499 号)
- 76 食品健康影響評価について : 食品安全委員会第 153 回会合資料 1-1-b (URL :

- <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai153/dai153-siryoul-1-b.pdf>
- 77 暫定基準を設定した農薬等に係る食品安全基本法第24条第2項の規定に基づく食品健康影響評価について：食品安全委員会第153回会合資料1-4（URL：<http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai153/dai153kai-siryoul-4.pdf>）
- 78 食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会第4回会合（URL：http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/sougou2_dai4/index.html）
- 79 食品安全委員会農薬専門調査会幹事会第4回会合（URL：http://www.fsc.go.jp/osirase/nouyaku_annai_kanjikai_4.html）
- 80 国民栄養の現状－平成10年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2000年
- 81 国民栄養の現状－平成11年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2001年
- 82 国民栄養の現状－平成12年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2002年
- 83 ビフェナゼートに係る食品健康影響評価の結果の通知について[平成18年12月5日付、府食第974号]（URL：<http://www.fsc.go.jp/hyouka/hv/hv-tuuchi-hifenazate180718.pdf>）
- 84 「暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順」に基づく暴露評価結果の報告について[平成19年2月6日付、食安基発第0206002号]
- 85 食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生労働省告示第370号）の一部を改正する件[平成19年4月26日付、平成19年厚生労働省告示第189号]
- 86 食品健康影響評価について：食品安全委員会第202回会合資料1-1（URL：http://www.fsc.go.jp/hyouka/hv/hv-uke-bifenazate_190806.pdf）
- 87 食品健康影響評価について：食品安全委員会第202回会合資料1-3（URL：<http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai202/dai202kai-siryoul-3.pdf>）
- 88 食品安全委員会農薬専門調査会幹事会第28回会合（URL：http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai28/index.html）